

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3650180189		
法人名	医療法人 敬老会		
事業所名	グループホームフォレスト		
所在地	徳島県徳島市八万町大野7-1		
自己評価作成日	平成29年12月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のペースに合わせて、職員も一緒に生活しているという雰囲気作りを大切にしている。中庭や畑、ウッドデッキなど庭にも工夫し、屋外ならではの有効活用が出来ている。利用者一人一人が生きがいを持って生活が出来るように、また個人の能力を発揮出来るように、得意な事・好きな事を知ることから取り組んでいる。クラブ活用や行事も多様で、利用者が選択して参加出来るよう工夫している。家族にボランティアや慰問という形で、関わりを持って頂いている。協力病院と密な連携が取れ、時間外でも相談する等普段から気軽に話し合える関係が出来ている。地域の行事(祭り・文化祭等)にも積極的に参加し、交流を深める事が出来ている。同一敷地内に医療・保健・福祉施設が隣接しており、状態の変化時も馴染みのある環境のなかで対応出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者のできることに着目した暮らし方を支援している。ボランティアの協力を得ながら、合唱クラブで馴染みの歌を口ずさんだり、干し柿づくりや切干大根づくりをしたり、利用者が主役になる日常を工夫している。また、部屋に縁側があり、中庭や畑に出ていけるようにと、設計した当初の思いを受け継いで、職員の見守りや声かけで利用者の自由な暮らしを支援している。家族との関係も良好で、意見や要望など率直に話し合っている。地域との関わりで、いきいきサロンや介護相談に職員が協力している。保育園児との月1回の交流は長年続いていて、利用者の楽しみとなっている。職員は研修や委員会活動に意欲的に取り組み、自らのケアの質の向上に努めている。運営法人は、地域の防災に積極的に取り組み、事業所もその一員としての役割を認識している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に管理者により理念について説明を行い、理解・共有出来るように努めている。その他研修や勉強会申し送り時など日常業務の中でも理念に基づいた考え・行動が出来るよう、振り返りの機会を設けている。	事業所では、今まで生きてきた利用者一人ひとりの歴史を大切に暮らし方を支援するという思いを込めた事業所独自の理念を掲げている。理念にもとづく計画目標を作成し、より具体的な支援を実践している。管理者は、職員とともに、地域密着型サービスの意義を考えている。朝の申し送りや研修でも理念を確認し、ケアのよりどころとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元の行事(八万文化祭)に作品を出展し、見学に行っている。地域の保育所と毎月交流の場を設けている。町内会長の計らいで、地元の秋祭りでは、御神輿巡行に訪れて下さっている。	事業所として、町内会に加入している。秋祭りの神輿が立ち寄るなど、新たな交流もある。文化祭への作品出展や月1回の保育園児との交流など継続的に地域交流を図っている。職員が、地域のサロンや介護相談コーナーに参加し、地域との関わりに積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	系列施設で開催される家族介護教室を兼ねた親睦会では、認知症に関する質問も多く、有効な時間が共有出来ている。日曜市で月1回介護相談のブースを開設し、フォレスト職員も参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されたご家族や地域の方の質問や意見・要望を職員で検討し、担当者会議で取り上げたり、必要に応じて法人全体に報告し、サービスの質の向上につながるよう努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の状況を伝え、利用者や家族、地域の代表者、地域包括支援センター職員等の出席を得て、双方向的に意見交換を行っている。地域力を引き出す場もなっている。出された意見は、職員間で話し合い、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	要介護認定申請などで市役所に出向いた際には、担当職員と情報交換を行ったり、疑問点を質問したりしてアドバイスを頂いている。	月1回、市担当窓口を訪問し、実績報告や事業所の取り組みを伝えている。制度についての相談をしたり、情報を得たりして、密に連携を図るよう心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の勉強会を定期的実施し、言葉による抑制も含めて全職員が理解を深めている。チャイム音やドアの開閉に気を配り、利用者の状態を把握しながら見守りを行っている。	事業所では、リスクマネジメント報告制度の安全対策委員会を設け、身体拘束の廃止に関する手引きを使って、職員研修を実施している。拘束の具体的な内容の理解を図り、拘束感のないケアを実践している。チェックリストを用いて職員同士でも勉強し、見守りを中心とした支援を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を実施し、身体・精神両面の虐待について理解を深めている。職員同士で注意がし合えることを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法定後見人制度を利用している利用者がおいですることで、職員も知ろうとする姿勢が見られる。勉強会を実施する予定になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書及び重要事項説明書をもって、十分な時間をかけて説明を行って居る。また事由に質問して頂き、理解が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日常の関わりの中から思いをくみ取るように努めている。家族の面会時には職員から声をかけ、意見・要望を頂きやすい雰囲気作りを心がけている。職員ミーティング等で話し合い、改善に向けている。	職員は、利用者との日頃の関わりの中から、意向や希望を把握するように努めている。意見箱を設置したり、家族の来訪時に積極的に話しかけたりして質問や要望が出しやすい雰囲気づくりに努めている。年1回、家族会を開催している。出された意見は職員で話し合い運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りやミーティング時に意見を聞くようにしている。新人職員には個別に話をしている。出された意見はさらに検討し、前向きに反映させている。また職員には得意な事で日頃の業務に力を発揮して貰っている。	管理者は、ミーティングや日頃の業務を通じて、職員の意見を聞いている。また、随時個別面談を実施し、業務改善の工夫など、意見を話し合っている。把握した職員の意見を代表者に伝え、体操や菜園作りなど、職員の得意分野を日頃のケアに取り入れ、自主性を引き出している。管理者は職員のメンタルケアにも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況・業績などを業務中の動きの中から確認し、各自に合った担当業務・職場環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の勉強会では、職員が講師になることで自らのケアを振り返る機会とし、個々の職員に必要な外部研修へ参加出来るよう努めている。実践者研修や資格取得の為の講習会などへの参加も勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと広報紙のやりとりをして、互いの活動状況を参考にしている。外部研修等で他施設の職員と交流する機会には、積極的に意見交換をするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず訪問面接を行い、現在の悩みや不安などを本人から直接お聞きするようにしている。入居1ヶ月頃に利用者と一緒に話をする機会を持ち、困っていることなど無いかお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時には十分に時間をかけ説明している。質問にも丁寧にこたえ、不安が解決できてから入居となるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプランを立てる前に本人・ご家族から生活の希望をお聞きし、内容によっては他施設のケアマネと連携を図り、他のサービス利用の検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「生きがいを見つけ、共に育む」という理念に基づき、様々な暮らしの場の中でともに行うこと、支えあうことを実践している。野菜作り・調理・洗濯等を行う中で、得意分野を見つけられるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常の様子をこまめに報告し、必要に応じて相談して課題の解決策を考えている。できる限り家族との外出や外泊をして頂いたり、クラブ活動やボランティアとして関わって頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい方が何度でも面会に来て頂けるような雰囲気作りに配慮している。入居前に利用していた馴染みの店(美容院・スーパーマーケット等)には、個別に外出して利用して頂けるよう努めている。	事業所では、友人や知人が訪問しやすい雰囲気作りに努めている。家族の協力を得て、馴染みの店での買い物ができるよう支援している。ちぎり絵の制作や利用者が大切にしている絵画を飾るなど、大切にしているものを通しての人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡し役となって、毎日の生活の中で利用者同士の関係が上手くいくよう努めている。リビングでの席に配慮したり、家事を一緒に行って頂くことで、より良い関係性が築けるよう考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院先の病院を訪問したり、立ち寄れるようお声掛けをしたりして、継続した関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の意向がくみ取れるように担当者会議には参加して頂き、意見を聞いている。個別でコミュニケーションを図り、小さなことでもなるべく本人に意思決定して頂けるような場面作りをしている。	職員は、日頃の利用者との会話や表情から一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。言葉だけでなく、態度も見逃さないように努め、捉えた内容を記録し、職員間で共有している。その人の生活歴を把握し、本人の視点に立つ取り組みを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族や担当ケアマネから、生活歴やサービス利用について情報収集している。入居後も折りにふれ、ご家族からお話聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤職員・日勤職員の申し送りをしっかりと行い、入居者の方の一日の生活の流れを、途切れること無く全職員が把握出来るように努めている。新たな気づきは、申し送りノートを活用し、全職員に伝達して共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング・担当者会議の他、必要に応じてカンファレンスを行い、グループ内の他職種(医師・看護師等)からも意見を聞いている。本人には担当者会議に出席して頂き、家族からも必要に応じて要望等聴いて反映している。	事業所では、本人や家族の意見や要望を大切に捉え、介護職員や医師、その他の関係者の話し合いによって、介護計画を作成している。本人本位で、できることに着目した計画となるように努めている。モニタリングを繰り返し、定期的な見直しとともに、心身状況に応じて、随時、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに日々のケアを記録している。介護計画に基づいた記録が残せるように指導している。また、担当者会議の際には、必要に応じて記録を見返しながらか介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向のもと、個別の機能訓練や通院など、必要な支援を柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の民生委員の方にお願ひし、地域のお祭りに、御神輿巡行で施設に来て頂くことが出来た。又、町民文化祭に入居者の方の作品を出展し、見学する機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人・家族の意向を確かめ、希望になるべくそえるよう柔軟に対応している。眼科・皮膚科・歯科など、家族の協力も得ながら、個別に受診できるよう支援している。	事業所では、利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。内科や歯科の往診もある。眼科など専門医の受診は職員が同行する場合もある。家族と連絡を取り合い、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師とは、こまめに報告・連絡・相談を行い、アドバイスを頂いたり、状態に応じた適切な受診・看護が受けられるよう支援している。職員研修の講師も必要に応じて依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院入院の際には、医師・看護師との情報交換を行い、早期退院に向けて調整している。見舞いに出掛け、担当職員との情報交換にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には契約書及び重要事項説明書をもって、十分な時間をかけて説明を行って居る。また事由に質問して頂き、理解が得られるようにしている。、本人・家族・医師と共に、終末期の方針について話し合い、意向を確認している。	入居時の段階で、医師も交えて、重度化や終末期のあり方について事業所の方針を説明している。本人の心身状況の変化に応じて、関係者で話し合い、本人や家族の意向に最大限そえるよう、医療や介護の関係者で連携し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、研修を行っている。協力病院の看護師からの指導も受けて、実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新人研修時に個別指導を行う他、年2回の訓練を行っている。グループ全体で地域の団体・消防団との協働訓練を行った。食料・飲料水・介護用品の備蓄をグループで行っている。	年2回、同一法人の運営する併設の他サービス事業所の協力を得て、避難訓練を実施している。法人は地域の防災拠点としての役割を担い、地域との協力体制を構築している。毎月、安全対策委員会で防災窓の開け方や防災点検を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として、尊敬の念を持って接し、「～させて頂く」という謙虚な気持ち・態度を常に持つよう指導している。接遇マナー・プライバシー保護についての研修を行う他、個別に指導も行っている。	事業所では、居室に表札を掲げ、一人ひとりを個人として尊重している。尊厳やプライバシーの確保について、職員間で具体的に話し合い、確認している。職員は、言葉遣いに気をつけ、家族の話を全体の場では言わないなどプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話にも意見や希望を言いやすい雰囲気作りを心がけている。様々な場面で自己決定出来るよう声掛けの仕方を工夫したり、意図をくみ取ることが出来るよう、普段の行動について把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決めているが、食事・入浴・起床・就寝などの時間は、出来るだけ個人の生活スタイルに合わせて臨機応変に対応している。行事等への参加も個人の意向に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力して頂き、お気に入りの服やいつも使用している化粧品等を持参して頂いている。着たい洋服を選んで頂いたり、馴染みの美容院へ家族と出かけたりにされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、台ふきや盛りつけ、調理、片付けなどを担って頂いている。ホームの畑で一緒に育て、収穫した野菜を食材として使用し、食事中的話題とすることで楽しい食事の場となっている。	事業所では、利用者と職員と一緒に食事の準備や後片づけをしている。中庭でお弁当を食べたり、コーヒーを飲みながら歓談したりすることもある。菜園で育てた野菜を収穫したり、干し柿を作ったり、お誕生会メニューやおせち料理などの行事食を取り入れるなど、食べることに感心を持つことのできるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェック、体重の定期的な測定を実施している。グループ内の管理栄養士に相談して形態の工夫、補助食品の活用、家族に好みを尋ねる等しながら必要な栄養・水分摂取が出来るよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に歯ブラシを準備し、洗面所、自室で歯磨きが出来るよう声掛け・介助を行っている。状況に応じて、ガーゼ、スポンジ等を用いて、口腔内清潔の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	決まった排泄介助の時間にとらわれず、個々の排泄パターンを把握し、報告・検討することで、1回でも多く、トイレでの排泄ができるように努めている。尿意・便意のない方にもトイレ誘導時には便座に座って頂いている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援に努めている。尿意や便意のない方も、さりげなく誘導し、トイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から食事に食物繊維を多く含んだ食材を使ったり、十分な水分摂取や、適度な運動等、自然な排便につながるよう工夫している。家族にお願いして、個別にヨーグルトを購入して食事に付けている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望や体調により、夜間や日曜日にも随時対応している。また、入浴が「楽しみ」になるよう、プラーバシーに配慮したり、同性介助を行う等、一人一人の意向に添って対応している。	事業所では、利用者の希望に沿った入浴を支援している。坪庭を楽しみながら入浴できるような風情にも工夫している。同性介助など利用者一人ひとりの意向に沿った支援にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入居者の方の習慣や体調に応じて、自室で休む時間、ソファーでくつろぐ時間等取って頂いている。室温の調整、照明の明るさ等、個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報提供書は、事務所内の見やすい所にファイリングし、いつでも確認出来るようにしている。変更があった時には、申し送りノートにて全職員に伝達し、情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の要望・楽しみがケアプランに繋がられるよう取り組んでいる。趣味の品や作品を自室に置いたり、家事や余暇の時間に力が発揮できるよう、内容の工夫、声掛けを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「今日〇〇を買いに行きたい」という希望に出来る限り応じられるよう、週3回の買い物の日に対応している。中庭にはいつでも自由に出て、外気に触れることが出来る。美容院や墓参りには、家族の協力を得ながら出掛けて頂くようにしている。	事業所では、日頃から中庭や畑、事業所の周辺の土手などの散歩をしている。季節ごとに行事を計画し、家族の協力を得て、一緒に花見やひな祭りに出かけている。買い物や墓参りなど、一人ひとりの希望に応じた外出支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1番街 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持たれて、買い物に行かれる方もいる。持たれていない方には、財布と小銭を用意し、外出時やとくし丸での買い物時にはご自分で支払いをして頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内に誰でも使用できる電話機を設置し、自由に使用して頂いている。必要に応じて番号を押す等、支援している。手紙が届いたら、自室で本人にお渡しし、読んで頂いて居る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内には温湿度計を設置し、職員の感覚で室温管理しないように気を付け、こまめにロールカーテンを開閉し、時間の感覚を持てるようにしている。お正月、ひな祭り、七夕、クリスマス等、季節の飾り付けを入居者の方と一緒にやっている。	共用空間は、明るく清掃が行き届き、清潔を保っている。共用空間からは、中庭を眺めることができ、四季の移ろいを感じることが出来る。利用者は、畳コーナーで洗濯たみをするなど、思い思いに過ごしている。合唱などのクラブ活動の場ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内には、テーブル席、ソファ、畳の間と、同じ空間内でも個々の方が居心地良く過ごせる場があり、畳で洗濯物を畳んだり、ソファでうたた寝をしたり、自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂けるよう、説明している。家族の写真を飾ったり、趣味で作成した作品を飾っている方、位牌を持ってこられている方もおられる。	居室には、利用者の使い慣れたものを持ち込んでもらっている。使いやすいように配置を考え、コーナーにクッション材を使うなど、安全にも配慮している。趣味の作品や写真を飾り、居心地よく過ごすことができるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	戸惑いや不安を感じることなく過ごせるよう、自室やトイレの場所が分かるような工夫をしたり、自室内の家具の配置によって、転倒予防したり、安全に安心して暮らせる工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2番街 実践状況	実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に管理者により理念について説明を行い、理解・共有出来るように努めている。その他研修や勉強会申し送り時など日常業務の中でも理念に基づいた考え・行動が出来るよう、振り返りの機会を設けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の行事(八万文化祭)に作品を出展し、見学に行っている。地域の保育所と毎月交流の場を設けている。町内会長の計らいで、地元の秋祭りでは、御神輿巡行に訪れて下さっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	系列施設で開催される家族介護教室を兼ねた親睦会では、認知症に関する質問も多く、有効な時間が共有出来ている。日曜市で月1回介護相談のブースを開設し、フォレスト職員も参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されたご家族や地域の方の質問や意見・要望を職員で検討し、担当者会議で取り上げたり、必要に応じて法人全体に報告し、サービスの質の向上につながるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	要介護認定申請などで市役所に出向いた際には、担当職員と情報交換を行ったり、疑問点を質問したりしてアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の勉強会を定期的実施し、言葉による抑制も含めて全職員が理解を深めている。チャイム音やドアの開閉に気を配り、利用者の状態を把握しながら見守りを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を実施し、身体・精神両面の虐待について理解を深めている。職員同士で注意がし合えることを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	2番街	自己評価	実践状況
			実践状況	実践状況	実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法定後見人制度を利用している利用者がおいでることで、職員も知ろうとする姿勢が見られる。勉強会を実施する予定になっている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書及び重要事項説明書をもって、十分な時間をかけて説明を行って居る。また事由に質問して頂き、理解が得られるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日常の関わりの中から思いをくみ取るように努めている。家族の面会時には職員から声をかけ、意見・要望を頂きやすい雰囲気作りを心がけている。職員ミーティング等で話し合い、改善に向けている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りやミーティング時に意見を聞くようにしている。新人職員には個別に話をしている。出された意見はさらに検討し、前向きに反映させている。また職員には得意な事で日頃の業務に力を発揮して貰っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況・業績などを業務中の動きの仲から確認し、各自に合った担当業務・職場環境を整備している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の勉強会では、職員が講師になることで自らのケアを振り返る機会とし、個々の職員に必要な外部研修へ参加出来るよう努めている。実践者研修や資格取得の為の講習会などへの参加も努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと広報紙のやりとりをして、互いの活動状況を参考にしている。外部研修等で他施設の職員と交流する機会には、積極的に意見交換をするように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2番街 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず訪問面接を行い、現在の悩みや不安などを本人から直接お聞きするようにしている。入居1ヶ月頃に利用者とゆっくりと話す機会を持ち、困っていることなど無いかお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時には十分に時間をかけ説明している。質問にも丁寧にこたえ、不安が解決できてから入居となるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプランを立てる前に本人・ご家族から生活の希望をお聞きし、内容によっては他施設のケアマネと連携を図り、他のサービス利用の検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「生きがいを見つけ、共に育む」という理念に基づき、様々な暮らしの場の中でともに行うこと、支えあうことを実践している。野菜作り・調理・洗濯等を行う中で、得意分野を見つけられるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常の様子をこまめに報告し、必要に応じて相談して課題の解決策を考えている。できる限り家族との外出や外泊をして頂いたり、クラブ活動やボランティアとして関わって頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい方が何度でも面会に来て頂けるような雰囲気作りに配慮している。入居前に利用していた馴染みの店(美容院・スーパーマーケット等)には、個別に外出して利用して頂けるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡し役となって、毎日の生活の中で利用者同士の関係が上手にいくよう努めている。リビングでの席に配慮したり、家事を一緒に行って頂くことで、より良い関係性が築けるよう考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2番街 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院先の病院を訪問したり、立ち寄れるようお声掛けをしたりして、継続した関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の意向がくみ取れるように担当者会議には参加して頂き、意見を聞いている。個別でコミュニケーションを図り、小さなことでもなるべく本人に意思決定して頂けるような場面作りをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族や担当ケアマネから、生活歴やサービス利用について情報収集している。入居後も折りにふれ、ご家族からお話聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤職員・日勤職員の申し送りをしっかりと行い、入居者の方の一日の生活の流れを、途切れることなく全職員が把握出来るように努めている。新たな気づきは、申し送りノートを活用し、全職員に伝達して共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング・担当者会議の他、必要に応じてカンファレンスを行い、グループ内の他職種(医師・看護師等)からも意見を聞いている。本人には担当者会議に出席して頂き、家族からも必要に応じて要望等聴いて反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに日々のケアを記録している。介護計画に基づいた記録が残せるように指導している。また、担当者会議の際には、必要に応じて記録を見返しながら介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向のもと、個別の機能訓練や通院など、必要な支援を柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2番街 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の民生委員の方にお願ひし、地域のお祭りに、御神輿巡行で施設に来て頂くことが出来た。又、町民文化祭に入居者の方の作品を出展し、見学する機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人・家族の意向を確かめ、希望になるべくそえるよう柔軟に対応している。眼科・皮膚科・歯科など、家族の協力も得ながら、個別に受診できるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師とは、こまめに報告・連絡・相談を行い、アドバイスを頂いたり、状態に応じた適切な受診・看護を受けられるよう支援している。職員研修の講師も必要に応じて依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院入院の際には、医師・看護師との情報交換を行い、早期退院に向けて調整している。見舞いに出掛け、担当職員との情報交換にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には契約書及び重要事項説明書をもって、十分な時間をかけて説明を行って居る。また事由に質問して頂き、理解が得られるようにしている。、本人・家族・医師と共に、終末期の方針について話し合い、意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、研修を行っている。協力病院の看護師からの指導も受けて、実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新人研修時に個別指導を行う他、年2回の訓練を行っている。グループ全体で地域の団体・消防団との協働訓練を行った。食料・飲料水・介護用品の備蓄をグループで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2番街 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として、尊敬の念を持って接し、「～させて頂く」という謙虚な気持ち・態度を常につよう指導している。接遇マナー・プライバシー保護についての研修を行う他、個別に指導も行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話にも意見や希望を言いやすい雰囲気作りを心がけている。様々な場面で自己決定出来るよう声掛けの仕方を工夫したり、意図をくみ取ることが出来るよう、普段の行動について把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決めているが、食事・入浴・起床・就寝などの時間は、出来るだけ個人の生活スタイルに合わせて臨機応変に対応している。行事等への参加も個人の意向に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力して頂き、お気に入りの服やいつも使用している化粧品等を持参して頂いている。着たい洋服を選んで頂いたり、馴染みの美容院へ家族と出かけたりされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、台ふきや盛りつけ、調理、片付けなどを担って頂いている。ホームの畑で一緒に育て、収穫した野菜を食材として使用し、食事中的話題とすることで楽しい食事の場となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェック、体重の定期的な測定を実施している。グループ内の管理栄養士に相談して形態の工夫、補助食品の活用、家族に好みを尋ねる等しながら必要な栄養・水分摂取が出来るよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に歯ブラシを準備し、洗面所、自室で歯磨き出来るよう声掛け・介助を行っている。状況に応じて、ガーゼ、スポンジ等を用いて、口腔内清潔の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2番街 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	決まった排泄介助の時間にとらわれず、個々の排泄パターンを把握し、報告・検討することで、1回でも多く、トイレでの排泄ができるように努めている。尿意・便意のない方にもトイレ誘導時には便座に座って頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から食事に食物繊維を多く含んだ食材を使ったり、十分な水分摂取や、適度な運動等、自然な排便につながるよう工夫している。家族にお願いして、個別にヨーグルトを購入して食事に付けている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望や体調により、夜間や日曜日にも随時対応している。また、入浴が「楽しみ」になるよう、プラーバシーに配慮したり、同性介助を行う等、一人一人の意向に添って対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入居者の方の習慣や体調に応じて、自室で休む時間、ソファーでくつろぐ時間等取って頂いている。室温の調整、照明の明るさ等、個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報提供書は、事務所内の見やすい所にファイリングし、いつでも確認出来るようにしている。変更があった時には、申し送りノートにて全職員に伝達し、情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の要望・楽しみがケアプランに繋がられるよう取り組んでいる。趣味の品や作品を自室に置いたり、家事や余暇の時間に力が発揮できるよう、内容の工夫、声掛けを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「今日〇〇を買いに行きたい」という希望に出来る限り応じられるよう、週3回の買い物の日に対応している。中庭にはいつでも自由に出て、外気に触れることが出来る。美容院や墓参には、家族の協力を得ながら出掛けて頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2番街 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持たれて、買い物に行かれる方もいる。持たれていない方には、財布と小銭を用意し、外出時やとくし丸での買い物時にはご自分で支払いをして頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内に誰でも使用できる電話機を設置し、自由に使用して頂いている。必要に応じて番号を押す等、支援している。手紙が届いたら、自室で本人にお渡しし、読んで頂いて居る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内には温湿度計を設置し、職員の感覚で室温管理しないように気を付け、こまめにロールカーテンを開閉し、時間の感覚を持てるようにしている。お正月、ひな祭り、七夕、クリスマス等、季節の飾り付けを入居者の方と一緒にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内には、テーブル席、ソファ、畳の間と、同じ空間内でも個々の方が居心地良く過ごせる場があり、畳で洗濯物を置んだり、ソファでうたた寝をしたり、自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂けるよう、説明している。家族の写真や飾ったり、趣味で作成した作品を飾っている方、位牌を持ってこられている方もおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	戸惑いや不安を感じることなく過ごせるよう、自室やトイレの場所が分かるような工夫をしたり、自室内の家具の配置によって、転倒予防したり、安全に安心して暮らせる工夫をしている。		